



# コンテ

# 2006.1

## ことば

聖書「ヨハネによる福音書」第一章の冒頭に次のような内容がかかれています。

はじめに、ことばがあった  
ことばは、神と共にあった  
ことばは、神であった  
このことばは、はじめに神と共にあった  
すべてのものは、これによってできた  
できたもののうち、一つとしてこれによらないものは  
なかった  
このことばに、命があった

人はことばによって生きています。たった一言で死んでしまいたい気持ちになることがあれば、たった一言でどん底から這い上がることもできます。

口へんにプラスとかくと、叶(かなう)という文字になりますが、口へんにプラスとマイナスで、吐(はく)という文字になります。プラスのことば大切さを表していると感じています。

私は、脱サラして今年でちょうど10年になりました。この間、多くの暖かいことばをいただきました。特に創業期に、私にあまり経験がないにもかかわらず「一度やってみろ。君ならできるよ。」とって仕事を発注してくださったK社長のことばは、忘れることができません。

五日市剛さんの「ツキを呼ぶ魔法の言葉」という小冊子が口コミで30万部売られています。

『イスラエルのおばあさんが次のように話しました。「いやなことがあったときに「ありがとう」、良いことがあったときに「感謝します」ということばを使うと、ツキが手に入るのよ」

本年は本当にありがとうございました。おかげさまで社員一同年が越せそうです。来る年に皆様に「ツキ」がありますことを、心より祈っております。

【降旗 達生】

五日市剛さんの「ツキを呼ぶ魔法の言葉」を読みたい方は弊社までお問い合わせください。

## 資格案内 コンクリート診断士

コンクリートの状態を診断し適切な補修・補強を行うための資格が「コンクリート診断士」です。リフォーム工事、耐震補強工事などが増えているという時代の要請により必要性が急拡大している資格です。

### コンクリート診断士の位置付け

「コンクリート診断士」は(以後、「診断士」)、(社)日本コンクリート工学協会が実施する講習会を受講し、さらに試験によって相応のレベルのコンクリート診断・維持管理の知識・技術を保有していると認定され、さらに登録したものに与えられる名称です。「診断士」は構造体のコンクリートを対象として、その劣化の程度を診断し、維持管理の提案を行います。

### 受験資格及び試験内容

- ・受験資格...社団法人日本コンクリート工学協会の講習会を受講していること。
- ・試験内容...試験科目は、「コンクリート試験」「コンクリート診断士試験」の2科目。ただし、コンクリート技士・主任技士、1級建築士、技術士(建設部門)、1級(土木・建築)施工管理技士は、「コンクリート試験」科目が免除される。

### コンクリート診断士試験 2006年度(概要)

- ・試験日: 2006年7月23日(日)
- ・開催地: 主要都市(名古屋、東京、大阪等8カ所)
- ・試験方法: 筆記試験
- ・試験科目: 「コンクリート試験」「コンクリート診断士試験」
- ・願書販売: 2006年4月3日(月)~5月31日(水)
- ・願書受付: 2006年5月1日(月)~5月31日(水)
- ・受験料: 10,500円(消費税含む)

## ヒヤリハットの活用

ある日突然起こるようにはみえる事故、災害にも予告があることをご存知でしょうか。

「こんな危険がありますよ」「ケガをしますよ」と私たちに警告してくれているものを「ヒヤリハット」といいます。

「工作機械を動かして危うく自分がケガをしそうになったり、同僚にケガをさせそうになった」とか「モノを運んでいる途中で下に置いてある物につまずいてヒヤッとした」などは、少なからず誰でも経験があることではないでしょうか。「ヒヤリハット」は、このような「うっかり、ぼんやり、多分大丈夫だろう」といった行動により起こる「ヒヤッ」としたことや「ハッ」としたことの総称です。

職場環境の改善が図られ、しっかりと安全対策が講じられている会社では、災害が起こるとすれば、作業員自身の心構えや仕事に対する姿勢に大きく左右されることとなります。そして、スピードが求められる現在では、自分の置かれている状況や周囲の環境を把握し、瞬時に判断して行動する必要があるため、常日頃から同じ失敗や「ヒヤリ」、「ハッ」とした体験は

絶対に繰り返さないようにしなければなりません。

「就業規則」や「安全衛生管理規程」など形式的なマニュアルを整備されている会社は多くあります。当然、現場のルールとして規則や規程は大切なものですが、現場において災害を未然に防止する上でやらなければならないのは、日頃作業をしている人たちが感じた「ヒヤッ」や「ハッ」とした事例を洗い出し、それを情報として皆が活用できるように共有する仕組みを作ることがとても重要になってきます。作業に熟練し、今までに痛い思いをした経験のない人たちの中には「オレだけは大丈夫」という根拠のない自信を持って、危険に対する気配りが疎かになっている場合があります。そのような人たちにもこの「ヒヤリハット」の情報を共有し、危険に対する意識を高めることは安全管理上とても有意義なことです。

「安全は災害に学ばずして、ヒヤリハットに学べ」とよく言われます。何気なく見過ごしがちな「ヒヤリハット」の事例を情報とし、その一つひとつを話し合える職場風土をつくるとともに、意識だけに訴えるのではなく、現場の見やすい場所や工作機械の操作位置等に貼り出すなど、「見える形」にして活用していくことがとても大切になります。

セントラル社労士法人 服部 克己

## 未来のための建設業

我が国の建設業は、第二次世界大戦後の戦後復興や高度経済成長期の経済インフラ整備を通じて、経済発展に多大な貢献をしてきました。世界各国の歴史ある都市をみても、必要な経済基盤を整備し、生活する人々に快適な空間を提供するとともに、近代国家を築き上げてきたのは、まぎれもなく建設業と言えます。建設業は、地球でもっとも古く、基幹的な産業です。建設業が、「がんばってこそ、地球に住む人たちが豊かな生活を営むことができます。

しかしながら、現在、A元建築士による建築物の構造計算書偽造事件によって、建設業界の信頼が大きく傾き、社会問題にさえなっています。連日マスコミも関連ニュースを報道し、ここぞとばかりにバッシングを繰り返しています。

今回の問題は、いくつかの要素が複雑に絡み合っ

て発生した問題ではないかと感じています。

国土交通省が認可した構造計算の「認定プログラム」や確認審査機関の機能が不十分であったこと、あるいは建築士法における構造設計者の位置づけ等が挙げられます。加えて、適正な構造物を提供するという仕組みが、欠落していたために発生した問題であると思います。さらに財政難の中で、コスト削減を最優先するあまり技術者としての技術力、問題点を見極める直感力や経験、倫理観等が欠如していたと言わざるを得ません。

今から30年ほど前は、子どもたちがなりたい職業の中には「エンジニア」が入っていました。あるコマーシャルでは、建設業は地図に残る仕事として、誇りある仕事であった記憶があります。NHKのプロジェクXでも、技術者の熱き想いによって、さまざまな現場で不可能を可能にし、大きな成果を上げてきました。しかし2004年の子どもたちの中では、残念ながら「大工さん」ががろうじて10位以内に入っているのみで、技術系の職業は全く人気がない状態です。

建設業は、21世紀の現代においても不可欠な産業です。また、将来にわたっても欠かせない産業であることは間違いありません。そこで我々、現役の技術者は、若い世代が明るい夢を見て、建設業の中で生き生きと仕事をしたいと思えるように、あるいは、自分たちの子どもたちや孫たちがなりたい職業として復活するように、全力を尽くす必要があると思っています。そのためにも、公共の利益を追求し、永遠に残っていけるような構造物を、技術者として誇りをもって提供し続けなければいけないと考えています。

以上

山西孝二

